

第 7 分 科 会

生産性の向上と負担軽減への取り組み

ICT 等を活用しケアの向上を目指す

三重県鈴鹿市

種 別・特養 ふりがな 施設名 鈴鹿グリーンホーム

職 種・ケア ふりがな 発表者名 とみやま 富山ちあき

E-mail: suzugu@mecha.ne.jp Tel: 059-374-4600 Fax: 059-374-4543

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

当ホームは鈴鹿市西部地域の植木や茶の栽培が盛んな緑豊かな地域に位置しています。平成5年に特養・短期入所・通所介護を開設、平成25年6月から従来型特養・短期入所のサービスを1日も止めずに増築・改築・新築を伴う個室ユニット型への大規模改修を行い、平成26年5月にユニット型として指定を受けた。令和2年4月から特養8ユニット、短期入所1ユニットとして運営。介護ソフト・介護ロボットは平成28年導入(令和元年12月にソフトを変更)。令和3年7月現在、介護ロボットを8機種使用。

【取り組んだ課題】

- ・夜間帯のケアワーカーの身体的及び精神的負担
 - ・夜間の排せつ支援
 - ・居室内で起こるヒヤリハット
- を複数のテクノロジー組み合わせせて、実践する。

【具体的な取り組み】

- 1.問題解決のための取り組みの具体的な内容
 - ・見守り支援機器「Neos+Care」
 - ・排せつ予測デバイスDfree
 - ・介護ソフトBlueOceanNote II以上の組み合わせによる。
- 2.対象者
 - ・短期入所利用者
 - ・短期入所を含む3ユニットのケアワーカー(15名)
- 3.取り組みの手順
 - ・ネットワーク環境の整備(H28～)
 - ・介護ソフト BlueOceanNote II の導入(H28～)
 - ・Dfree の導入(R2～(R元～試用))
 - ・Neos+Care の導入(R2～)
 - ・メーカーとの意見交換とシステム改良(機器間の接着面)
- 4.活動成果を出すポイントになった点
 - ・IoT化
 - ・機器に苦手意識を持たない。(とりあえずやってみる。)
 - ・スタッフの意識(目的・目標)の統一
- 5.必要とした道具
 - ・介護ソフト BlueOceanNote II 1ライセンス
 - ・Neos+Care 10台
 - ・Dfree 1台
 - ・ホストPC 1台
 - ・PC(surface) 2台

【活動の成果と評価】

- (夜勤ケアワーカーの負担軽減)
 - ・不要な訪室が減った。
 - ・効率的な介入が可能となった。
- (ケアの質向上(夜間の排せつ支援))
 - ・手元のタブレットで利用者の状況がシルエットで把握できるため、夜間にスムーズにトイレへの誘導等排せつ支援を行うことができた。
 - ・汚染等によるスタッフの業務負担を最小限に抑えることができた。
- (ケアの質向上(ヒヤリハット事例からケアの改善))
 - ・居室内で転倒・転落があった場合でも、どのように発生したのか動画で把握できるため、「考える原因」ではなく、「確定した原因への適切な対策」が実施できた。再発防止に繋げることができた。

【今後の課題】

- ・見守り支援機器「眠りSCAN」、「Neos+Care」
- 排せつ予測デバイス「Dfree」
- 介護看護記録システム「BlueOceanSystem」やインカム等の機器、ロボットがウェアラブルデバイス等により、完全に連動し、且つ自動的に記録され、ケアの最適化ができること。

【参考資料など】なし